

長野県戸隠で雪の中のコテングコウモリを発見

大沢夕志・大沢啓子

コテングコウモリが雪の中で休眠するという話を聞いて、自分たちも一目見たいと願っていた。そして、毎年少しずつでも残雪の中を歩いて探してみようと思い立ったのが2015年の早春。とはいえ、なかなかそのために時間は取れず、2015年は2人でのべ10時間程度の探索をして、空振りのままシーズンは終わった。100時間くらい探せば見つかるだろうか、10年計画だなとその時は思った。

16年春、そんな決意は半分忘れ、別の目的で長野方面へ出かけた。本来の目的が早く終わり1日時間ができたので、そうだ、コテング探しをしようと戸隠まで行くことにした。もう4月中旬で、かなり標高の高いところまで行かないと雪はない。最初は戸隠森林公園内を歩いたのだが、残雪はかなり少ない。おまけにその日はとても暖かく、みるみる残雪は縮んでいく。1時間ほど歩き回ったが雪面が少なく効率が悪いので、もう少し標高の高いところへ移動。それでも地面の3割程度しか雪が残っていない。カラマツ林内を歩き始めてまもなく、ツキノワグマの足跡や毛なども見つけて、かなり気にしながらの探索となった。

歩き始めて30分ほど、小さな丸い穴ぼこを雪面に見つけた。のべ10数時間の努力量で見つけてしまい、ものすごい労力をかけて探索していた先人に大変申し訳ない、という気持ちが先に立った。

発見日時 2016年4月16日 12:20

場所 長野県長野市戸隠（戸隠森林植物園森林館の南西約700m）。標高約1300mの緩やかな北斜面。植生は20年生くらいの明るいカラマツ人工林。

経過 発見後、写真を撮り、いったんその場を離れる。

遅めの昼食をとり、土産物屋の集まる中社あたりまで下山。土産物屋でクマ鈴を購入してから16:00頃現地に戻る。ビデオカメラを持っていれば、現地に設置して後で回収という方法がいちばん良かったと思うが、自宅を出るときにはコテング探しをする予定はまったくなかったのも持参していない。そこで、目視できる場所で待機しながら、観察することにする。

日没は18:23。月齢は9で、晴れているため比較的明るい。さほど離れていないところで大型獣が動く音がするので、クマ鈴を頻繁に鳴らす。

19:30頃、コテングコウモリは少し頭部を動かしたので、死亡個体でないことは確かめられたが、その後は動かなくなってしまった。

20:00を過ぎると、飛び立てばかろうじてわかるという暗さになってしまい、たまに弱くLEDライトをあてたり、ストロボで写真を撮ったりして動いているかどうかを確認。まったく動かない。

20:30、これ以上はディスターブになってし



図1 周囲の様子。



図2 雪の中のコテングコウモリ。


まいそうなので、現地を離れる。

翌朝いるかいないか確認したいという思いもあったが、いなくなっていたからといって、自力で飛んだか、何かに持ち去られたり食われてしまったかは区別できないわけで、結局確認せずに自宅に戻った。

帰宅後、森林総合研究所北海道支所の平川浩文さんに報告。クマ鈴による影響を指摘いた

いた。購入したクマ鈴をバットディテクターで確かめてみると、30kHzあたりにピークがあり、40kHzあたりも大きく入る。我々が近くで観察していたことによる影響も考えられ、もし次回があれば、ぜひ赤外線ライトとビデオカメラで確認してみたい。

(おおさわ・ゆうし／おおさわ・けいこ コウモリの会)

 各地からの報告

倉敷市の井原鉄道高架に棲む ヤマコウモリ *Nyctalus aviator* の生息状況 —アブラコウモリ *Pipistrellus abramus* との比較

越山洋三・箴島玄太郎・宮竹貴久

はじめに

ヤマコウモリ *Nyctalus aviator* は日本最大の昆虫食性コウモリで (Fukui 2015)、環境省 RDB2017 で絶滅危惧 II 類に指定される希少種である (<http://www.env.go.jp/press/files/jp/105449.pdf>; 2017 年 12 月 11 日最終確認)。著者らは 2016 年に岡山県下 4 カ所目のヤマコウモリ生息地として倉敷市真備町の井原鉄道高架を報告し、本種の岡山県レッドデータブック (RDB) への掲載に言及した。加えて、県 RDB でのランクを決める判断材料を提供するためにも、この地域に棲むヤマコウモリの生息状況調査が必要であることを述べた (越山ら 2016)。本論文では、当地におけるヤマコウモリとアブラコウモリ *Pipistrellus abramus* の個体数と糞粒数の季節変動調査、および、広域分布調査の結果から、両種を比較し、ヤマコウモリの生息状況を報告する。

材料と方法

調査地と調査期間

岡山県倉敷市真備町を小田川に並行して東西に走る井原鉄道の高架のうち、備中呉妹駅付近 (以下、エリア 1) と吉備真備駅付近 (以下、エリア 2) の 2 つのエリアを調査地とした (図 1)。高架は橋脚、橋梁ともコンクリート製で、下から見上げると橋梁間の繋ぎ